

ノイエスだより ノイエス朝日

(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町73-5
TEL 027-255-3434
FAX 027-255-3435
<https://www.neues-asahi.jp>
Communication House
NEUES ASAHI

二〇二三年が終わろうとしています。年々加速して月日が流れてしまふと感じる中、ここ数年はとくにコロナに振り回されている間にあつとう間に過ぎてしまいました。さらに世間を騒がせるニュースは暗い話ばかり。かといつてバラエティ番組を見ていても心から笑えず、大河ドラマの戦闘場面ではやたらと兜を照らす点々のライトが気になつて物語に集中できないというつまらない心の状態に陥つてしましました。世の中に憂うことはたくさんあるけれど、心が動かなくなつてしまつてはいけない。そんな危機感を抱いています。二〇二四年は新鮮な気持ちで本当のポスト・コロナ時代をどう生きるのか考えなくては。

来年はオリンピックイヤーだそうです。世界的に対立や紛争とともに伴つた極端な思想活動が勃発する中でどのような「平和の祭典」が開かれるのでしょうか。東京オリンピックはロゴマークの再選考から始まつて開会式の振り付け問題や公式スポンサーを取り巻く金銭問題が露見したことなど、近代的な世界イベントの美しくない部分ばかりが印象に残つてしまい残念でした。そんな状況に疲れたのか大阪万博への国民の期待も希薄というか否定的な声が多いように感じられます。パリのオリンピックが曇天に表れる虹のように新しい世界の希望になつたらいいなと思っています。せつかくのオリンピック開催になるのなら、二〇二四年は紛争よりも対立よりも、平和と対話が少しでもなされる世の中になるよう祈っています。

ノイエスでは今年も二十の企画展と数回の貸会場展を開催することができます。建物は来年築三十年の節目を迎えます。アートギャラリースペースとしては継続したからこそその実績と信頼を維持しつつ、新たな展示やお客様への対応も進めて、より一層皆様の拠り所となるような場所にしていきたいと思います。

本社の印刷会社も、長らく斜陽産業と言われつゝも世間では紙や印刷物に対する愛着と文化的な土台や背景の御陰で仕事が無くなることもなく、最近では紙に拘らずとも、地域と人とを結び続けるメディア産業としての役割も成長させていただいています。少しずつ変わっていく前橋の中心街に位置するディップス朝日のまちなか店でも多くの出会いがあり、遠くから見るだけでは分からなかつた今の若者の穏やかなエネルギーを知り、頗もしく感じる時がありました。今年もノイエスに来てくださいました。二〇二四年もよろしくお願ひいたします。

今年もノイエスに来てくださいました皆様に心より感謝申しあげます。

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内



会期

一月二十七日（土）～一月四日（日）

可視2024

〈企画〉

会期

一月十三日（土）～二十一日（日）

午前十時～午後五時（最終日は午後四時終了）

（出品作家）

今井充俊 大島康幸 小淵俊夫 加藤啓治
金井訓志 北村真行 坂本幸重 下山直紀
多胡 宏 豊嶋康男 原澤和彦 原 誠二

美しい色で清々しい景色を描いたり、まるで目の前で風にそよいでいるかのような麗しい草花を描いた作品は、着物で友禅を見るのとはまた違つた風情があるものです。絵画であるとはいえ紙に書くのとは違つて「やはり私は色を作つて布の上に筆を置いて描きたい」と、長年の制作経験を経ても友禅への憧れを持つて語る作家の姿も作品と同じように美しく感じました。会期中はなるべく午後三時頃までは在廊予定だそうです。お誘いあわせの上ご覧ください。

可視

可視化＝人の目には見えない事物や現象を、映像やグラフ、表などにして分かりやすくすること。見える化。美術家はそれぞれの視点で、独自の表現を可視化しようと/orする。色彩や形態など純粹な造形言語、人間の内面・精神世界、今日の社会事象などに感應し、作品と無言の対話を行いつつ制作をする。その作業は混沌として彷徨いながらも、試行を重ねることで新たな挑戦へと向かわせる。それは作家にとっての根幹であり、創作の意義がそこにある。「可視2024」の作家たちは、それぞれ「可視化」に対する志向や表現方法は異なるが、それに対する思考の深度、恐怖において共通性を感じている。今回もそれぞれの作品がコンフリクト（衝突）しながらも、逆説的にポリフォニック（重奏的）な空間が会場に立ち現れる」ことを企図する。

ノイエスふる本市

〈企画〉

会期

二月十日（土）～十八日（日）

午前十時～午後五時（最終日は午後三時終了）

毎年恒例になり、楽しみにしている方も多いふる本市を開催します。宗教・神話・哲学・文学・語学・歴史・地誌・経済・社会学・医学・美術など専門書を中心に約四〇〇〇冊を用意しています。

永井與子 絹に魅せられて
友禅着物から染画へ

〈企画〉



本展覧会は、ジャンルや概念にとらわれず独自の表現を行なう作家が集い、互いに刺激を与え合う場として結成され、今回で五年目を迎えます。出品者それぞれの可視化への試みと12人の多様な表現をご覧ください。